

《履修上の留意事項》初老期から高齢期に関する心理的支援について、実際のアセスメント法、介入法の基礎を学ぶ講義科目である。大学院に進学して公認心理師を志望する学生を対象とする。本学大学院においてはこの科目を履修していることを前提として講義科目が組まれる予定である。

《担当者名》○中野 倫仁 (nakanon@hoku-i-ryo-u.ac.jp) 百々 尚美

【概要】

主として高齢者に関する臨床心理学的アセスメントおよび心理療法について、その概要を学ぶ。

【学修目標】

主として高齢者を評価する心理検査の概要を学び、学生同士で評価を体験する。
主として高齢者を対象とした心理療法の概要を学び、視聴覚教材および学生同士の実習を通して、体験する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	高齢者の評価・心理的介入	老年期に対する臨床心理学的評価・介入について学ぶ。	中野 倫仁
2・3	高齢者の記憶検査	ウエクスラー記憶検査の概要を学び、相互に実習・評価を行う。	中野 倫仁
4	高齢者の認知機能評価	ADAS-J cogとSIBのDVDを供覧し、その概要を学ぶ。	中野 倫仁
5・6	高齢者の神経学・神経心理学的検査	神経学・神経心理学的検査法の概要を学び、相互に実習・評価を行う。	中野 倫仁
7・8	認知リハビリテーション	紙と鉛筆、物品を用いた認知リハビリテーションの概要を学び、相互に実習・評価を行う。	中野 倫仁
9	高齢者のこころの病気	高齢者のこころの病気について理解し、必要な検査について学ぶ。 認知症患者を支える人たちの問題について学ぶ。	百々 尚美
10・11	認知症の評価尺度(1)	認知症の症候、評価尺度を理解し、必要な検査、診断について学ぶ。	百々 尚美
12・13	認知症の評価尺度(2)	疾患ごとの機能低下部位を理解し、複数の認知機能障害について学ぶ。	百々 尚美
14・15	認知症の評価尺度(3)	認知症の行動心理症状(BPSD)を理解し、必要な検査について学ぶ。	百々 尚美

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用
授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

講義内における小テスト、実習、およびレポートで評価する。

【参考書】

神経心理学的アセスメント・ハンドブック 金剛出版 2015年
高次脳機能検査の解釈過程 協同医書出版社 2004年
高次脳機能障害のリハビリテーション(第3版) 医学書院 2016年

【備考】

百々尚美担当回の授業資料の配布はGoogle Classroomを利用して学習課題を呈示する。
百々尚美担当回分は、授業内で行うGoogle Formを用いた小テストを行う。

【学修の準備】

心理検査のマニュアルは予習は必須であり、熟読して実習に臨むこと(80分)。
復習として講義内容を見直し、関連書籍を図書館で借りて、理解を深めておくこと(80分)。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得するための講義である。

【実務経験】

中野 倫仁（医師、公認心理師）、百々 尚美（公認心理師）

【実務経験を活かした教育内容】

公認心理師としての臨床・研究・社会的貢献の成果を反映させた講義内容となっている。
実務における注意点、失敗例等を教示する。